

平成23年度 募集

学まちコラボ事業

大学と地域の協働による取組に助成金を交付し応援します！

京都市・(公財)大学コンソーシアム京都では、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」に基づき、大学と地域との連携による取組に対して助成金を交付する「学まちコラボ事業(大学地域連携モデル創造支援事業)」を実施しています。

この事業は、大学にとっては実践的な教育・研究機会の確保による人材育成などを、地域にとっては大学の知や学生の活力による地域の課題解決や活性化を図ることを目的としています。

また、この取組を各区基本計画にある個性を生かした魅力ある地域づくり事業と関連づけることで、各区基本計画の振興に役立てるとともに、取組成果等を広く市民に周知したり、地域との取組を行う他の団体等とのネットワークづくりなどを支援することにより、大学と地域との連携をより一層促進することを目指します。



「節分おばけ」伝承ネットワーク構築プロジェクト



「1000人の笑顔の庭」プロジェクト



「本能の染めと職人さん図鑑」の作製とその活用



地域から発信できること
～地域の防災への参加～



ようこそ門前町イヤー計画



ぶかぶか
ピオトープ深・深島計画



まちむぎ水尾
～小学校の記憶・交流の息吹～



醍醐小栗栖地域で子どもの
自己肯定感を高める通学合宿



都ライト



東山スタイル・ライフブランド
(地産地生)の創出プロジェクト

平成 22 年度 採択プロジェクト紹介

事業概要と成果

1 東山スタイル・ライフブランド (地産地生) の創出プロジェクト

東山スタイル・ライフブランド (地産地生) の
創出プロジェクト (京都造形芸術大学) / 東山区



事業概要 東山区の独自資源を掘り起こし、ラ イフブランドを立ち上げていくことを目的とする。六原地域の住民の暮らしの歴史を調査・分析し次世代に引き継ぐモデルを示すことにより、まちの魅力を発信する。また東山区の職人状況を把握し業種を超えた連携を模索することにより、ものづくりのまちとしての魅力も深化させ、東山区への移住・定住の指針作りにも取り組む。

成果

- 7月イベント参加者の約8割が地域住民だったが、「普段は歩いていても気づかないような所に目がいった」「ずっと住んでいてもまだまだ知らない事が多い」といった声があった。
- 学区の統合、一貫校の開校等が進む地域で、住民自身が次世代へ残したいものを探すことによって、自分たちの住まう地域への愛着をより深めることができた。
- 作成した冊子は、東山区役所、東山区図書館、六原自治連合会、大学内、その他活動を通じて配布し、地域活性化のモデル事業の一成果物として、地域や地域活動をしている方々に喜ばれた。

2 「1000人の笑顔の庭」プロジェクト

NPO 法人葵プロジェクト (京都府立大学) / 北区



事業概要 京都洛北・賀茂地域を中心に、全国に向けて人と人とのつながりや出会いを創造し、地域活性化を目的として、京都市内在住の1~9歳の子供の笑顔の写真を撮影・募集し、京都府立陶版名画の庭で「1000人の笑顔の庭・展示会」を行う。なお、活動にあたっては、府立大学を中心として大学写真部と連携しながら撮影部隊を作る。

成果

- 地域の笑顔がつながり「笑顔の庭」から「笑顔の森」への展開が望まれるところです。
- イベント当日が雨だったので、地域の方の参加や見学も少なく、結果としては満足のいくものとはならなかったが、児童館の子どもを連れて傘をさしながら見学に来られた施設も多かった。
- 地域の子どもたちに横のつながりをつくるきっかけとすることが出来た。

3 地域から発信できること ～地域の防災への参加～

京都橘大学 救急救命研究会—TURF— / 山科区

事業概要

心肺蘇生法や応急救命の知識・技術の定着を目的として、地域住民へ講習を実施する。また京都橘大学ボランティア推進委員会と協力しながら、事故予防のための危険場所を示した地図 (ハザードマップ) を作成し、学区の安心・安全を構築する。

成果

- 山科区で行った防災訓練において約400名の方に指導を行った。心肺蘇生法の体験では簡易型蘇生人形も用い、地域の方にわかりやすく蘇生法等の重要性を認識してもらうことができた。
- 山科区大宅学区自主防災会との意見交換会を行い、実用的な危険な場所を示した地図 (ハザードマップ) を作成し、学区の安心・安全を構築することができた。



4 「本能の染めと職人さん 図鑑」の作製とその活用

本能まちづくり委員会 (立命館大学) / 中京区

事業概要

染めのまちへの理解の深化と地域コミュニティの活性化を目指し、「本能の染めと職人さん図鑑」の作製を試みる。京染めの工程や仕事内容、職人の暮らしぶり等をまとめたこの図鑑を本能学区全戸に配布することによって、地域活動への興味・参加を促進する。

成果

- 『本能の染めと職人さん図鑑』の作製にあたり、本能学区にある工房をリストアップしたことで、本能学区には100軒以上の工房があることを明らかにすることができた。
- 職人さんと新たなネットワークを形成することができた。
- 「高倉小学校スマイル21プラン委員会」に協力要請をしたことで、高倉小学校の子どもたちと新たなつながりを築くことができた。



5 ようこそ門前町イヤー計画

龍谷大学門前町総合調査チーム / 下京区



事業概要 西本願寺門前町に賑わいを取り戻すため、下京渉成小学校の児童・保護者とともに学区全体を散策し、その様子を絵にした絵画展を開催するなど、住民の地域への関心と意識を高める事業を展開する。また西本願寺と門前町の観光資源を紹介することによって、観光客の増加を促進する。

成果

- 植柳学区の住民を対象として門前町らしい風鈴を作成することにより、門前町の最大の産業である仏壇仏具業への関心を高め、仏具の「りん」を身近に感じてもらう機会となった。
- 門前町の散策と絵画の展示会、伝統産業体験会を実施し、下京渉成小学校の児童・保護者・教職員・地元住民と門前町を散策することによって、新しい校区と門前町をより身近に感じてもらう機会となった。
- 門前町の清掃活動を毎月1回定期的に実施することにより、徐々に参加者が増え、住民同士の交流の場となった。
- 地域に住む外国人留学生も参加し、日本の伝統行事への理解が深まった。



6 「節分おばけ」伝承ネットワーク構築プロジェクト

精華おばけ会（京都精華大学）／中京区

事業概要

伝統文化の継承や地域コミュニティの推進、地域社会・経済の活性化を目的とし、①生活文化の聞き取りから「京都三条昔語り」Ⅱ発行、②「おばけカフェ」「おばけパレード」開催、③「節分おばけ」伝承ネットワークの構築を行っていく。

成果

● 戦前戦後のくらし全般についての聞き取り調査では、年配の方々にとつては往時を懐古する契機となり、学生にとっては京都のお年寄りと語り合う、貴重な交流の場となった。これらの記録は『京都三条昔がたり第二集』として 150 部を発行し、「節分カフェ」等の場で地域の方々へ配布した。

● 節分と「おばけ」の関係について説明したリーフレットを、地域の約 650 名の児童に配布し、伝承ネットワーク構築の一助とすることができた。

● 三条堀川から三条線本までを 2 時間半かけて練り歩く「おばけパレード」には、約 180 名が参加し、「節分おばけ」の浸透に貢献できた。



7 醍醐小栗栖地域で子どもの自己肯定感を高める通学合宿

NPO 法人山科醍醐子どものひろば 楽習サポート のびのび学生サポートチーム（龍谷大学）／伏見区



事業概要

家庭的課題を抱え自己肯定感の低い子どもたちに、大学生がマンツーマンで付き添いながら夜の生活をサポートする通学合宿を行う「楽習サポート活動」を通じて、醍醐小栗栖地域の子どもたちの健全な成長をサポートする。また、学生自身の成長や、地域の中で子どもたちが過ごしやすい環境づくりを目指す。

成果

● 学生サポーターが活動を通して個別に支援を行うことによって、子どもたちが人を笑顔にすることに喜びを感じるようになったり、リーダーシップを発揮できるように成長し、子どもたちの自己肯定感が高まったことを実感した。

● 通学合宿が終わるごとに「のびのびつうしん」などの活動報告書を発行し、子どもや保護者から活動の話が伝わるにつれ、小学校の教職員から「今後もこの活動を続けてほしい」、「さらに対象の子どもを増やしてほしい」といった意見をもらった。

● 地域（NPO と小学校）との連携により、活動報告の場をはじめ地域のイベントに呼んでもらうことができ、この通学合宿が地域福祉の新しい取り組みとして注目を浴びた。

ふかふか

8 ビオトープ深。深。島計画

LactPren-Fukakusa（京都教育大学）／伏見区

事業概要

地域住民・行政・各種団体と協力して、地域の中にある一番大きなため池を放置竹林の間伐竹で作った竹炭を活用して水質浄化を行い、「ビオトープ」に整備した。教育機関（主に幼稚園、



小学校）の環境学習の場として、「持続可能な開発のための教育」に貢献する。また、水辺環境の整備を図ることで深草地域の自然の魅力を高め、地域外からの来訪を促すことで、地域の活性化を図る。

成果

- ビオトープ近郊のトレイルルートを散策する住民が増え、深草地域の自然の魅力を再認識する人が増加した。
- 事業実施後、ゴミの投棄が減少した。
- ため池の危険も回避し、溝側の整備などが自主的に取り組まれるようになった。
- 協力団体である伏見工業高校生の総合学習における実地実習の場として貢献できた。

9 都ライト

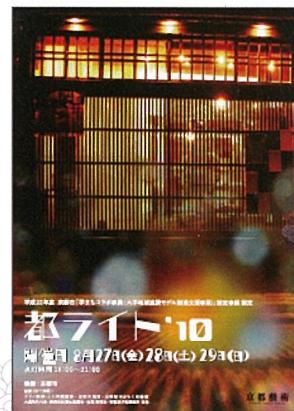
都ライト（同志社大学・京都精華大学・京都教育大学）／上京区

事業概要

古くからの町並みや地域に対して関心を深めることを目的として、町家の光を灯すイベント「都ライト」を行う。また、このイベントが地域振興の助力となるよう、地域住民と実行委員が協力して行っていく。

成果

- 京町家の持つ様々な魅力を発見・再認識し、その中にいる人と人の繋がりの大切さを知り、古都京都の町並みや地域コミュニティに対して眼を開けるきっかけとすることができた。
- 都ライトの来場者は開催区である上京区が最も多くの数を占めていたが、今年度は各区役所にリーフレットを配架することで、他の区からも広い年齢層の方に来場してもらうことが出来た。
- 今年度は活動メンバーの学生が多大学多学科になったことで、今後の活動において必要なネットワークの構築ができたのではないかと思う。



10 まちつむぎ水尾

～小学校の記憶・交流の息吹～

同志社大学政策学部井口ゼミ 水尾プロジェクト／右京区

事業概要

過疎化・高齢化する水尾の地域活性化を目的として、途絶えてしまった盆踊りを復活させる。また、休校中の水尾小学校で盆踊りの準備活動やワークショップを行うことにより、地域活性化活動と交流の促進をはかる。

成果

- ワークショップの実施や盆踊りの開催等のイベントだけでなく、地域の事業に積極的に参加協力したことにより、地域自治会と大学との連携が深まるとともに相互の信頼関係が深まり、地域と学生との間に新たなコミュニティの形成ができた。
- ワークショップでは、水尾地区の人口が 50 名のうち、本事業スタッフを含む 33 名が参加し、地域での受け入れ規模の限界を知り、水尾でできることできないことの取扱いや、これからの活動の方向性を再確認することができた。
- 一定期間に事業を実施して成果を残す事業タイプではなく、細く長く活動することが真の地域課題解決につながるのだと再認識することができた。



平成 23 年度 募集について

平成 23 年度事業の募集を下記のとおり行います。詳細については募集要項を参照のうえ、ご応募ください。

応募資格

申請事業の実施主体が、次表の要件を満たすことが必要です。

申請者

- ・大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の団体・グループ（大学部署、研究室、ゼミ、クラブ、学生サークル等）
- ・地域住民で構成される団体・グループ

活動実績

- ・団体・グループとして、一定の活動実績を有すること（申請事業は新規のものでも可）

※事業内容・趣旨等に鑑み、活動を奨励することを目的として、実績有無を問わず採択する場合があります。

自己資金

- ・自己資金を有すること（金額の多寡は問わない）

その他

- ・適正な経理処理・事業報告ができること

対象事業

平成 23 年度中に京都市内で実施される、次の要件に該当する事業を対象とします。（特に大学と地域との深い協働がなされ、地域活性化に貢献するものが望られます）ただし、政治活動・営利事業等を目的とするものは除きます。

- ✓ 大学又は地域団体等が実施する、大学と地域住民が連携・協働して取り組む事業で、各区基本計画にある個性を活かした魅力ある地域づくり事業と関連したもの

例：保健・福祉、社会教育、まちづくり、学術・文化・芸術又はスポーツの振興、環境保全、地域安全等の様々な分野における調査研究、市民講座、イベントなど

- ✓ 先進性を有し、他の地域のモデルとして応用、展開が期待されるもの

- ✓ 繼続性及び発展性が期待できるもの

- ✓ 以前に本事業の助成を受けたことのある団体は、新たな事業展開（新規性）を有すること

※学生の活動初動期に対しては、「輝く学生応援プロジェクト」助成事業を実施しています。詳細は京都市ホームページをご覧ください。

助成金額

助成金の上限は 30 万円です。採択件数は 7 ~ 10 件を予定しています。

※事業実施が不可能な場合や事前に相談なく事業内容を大幅に変更した場合には助成金の全額または一部を返金していただくことがあります。

応募方法

- ① 区役所・支所、キャンパスプラザ京都等で配布の募集要項・申請書を入手し、募集要件を確認してください。
(大学コンソーシアム京都のホームページからも入手できます。)
- ② 申請する事業について、各区役所における「各区基本計画」の担当課を訪問し、担当者と意見交換を行ってください。
- ③ 申請書に必要事項を記入し、申請書類を【8 部】用意の上、大学コンソーシアム京都へ【郵送】または【持参】にて提出してください（FAX、メール等での提出は不可）。
- ④ 事業概要について、150 字以上 200 字以内でまとめ、gaku-machi@consortium.or.jp へ【メール】にて提出してください。
※複数の団体・グループが連携して助成対象事業に取組む場合は、いずれかの団体・グループが代表して応募してください。

受付期間

平成 23 年 4 月 13 日（水）～5 月 20 日（金）※必着

選考方法

1 次審査
(書類審査)

2 次審査
(公開プレゼンテーション審査)
発表 5 分・質疑応答 5 分
※6/26(日) 午後(予定)

採択決定
認定式
※7月初旬～
中旬を予定



申込等一般のお問合せ先



大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

まちコラボ事業担当

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都
TEL : 075-353-9163 (※日・月を除く 9:00 ~ 17:00)
FAX : 075-353-9101
E-mail : gaku-machi@consortium.or.jp
U R L : <http://www.consortium.or.jp>

本事業の企画等へのお問合せ先

京都市 総合企画局
市民協働政策推進室（大学政策担当）

TEL : 075-222-3103

FAX : 075-213-0443

発行 京都市総合企画局市民協働政策推進室
京都市印刷物 第234073号

